

国産乳製品等競争力強化対策事業の事業評価票

- 1 事業実施主体名：有限会社あすなろファーム
- 2 事業実施期間：平成30年 ～ 令和2年
- 3 補助額（事業費）：50,328,000円（22,717,246円）

4 事業内容

原料の生乳生産については、引き続き、十勝の大自然を活かしたこだわりの良質の生乳を生産するとともに、生乳生産牧場の近傍にチーズ製造加工施設を整備し、（一財）蔵王酪農センター、先進チーズ工房等の高水準の技術を導入しつつ、生産性が高く競争力のある当社ブランドの多様なナチュラルチーズを製造・販売し、消費者にこだわりの高品質チーズを提供することにより、次の事項を達成することを目的とする。

- (1) 十勝の大自然の恵みを活かしたサステナブルな酪農、乳製品加工の定着
(2) 顧客、地域住民、来訪者等に対する正しい食知識の普及と国産牛乳乳製品の消費拡大
(3) チーズ製造加工施設を核とした地域の観光拠点の創設

5 成果目標の達成状況

	生乳取扱量 (トン/日)	製造品目・ 年間製造量				年間製造経費 (千円)	年間製造経費(千円)/ 年間製造量(トン)	対現況比	年間販売額 (千円)	対現況比	備考
現況値 (H29年度)											
目標値 (R2年度)	0.3	フレッシュ	カチョカバロ	ラクレット	長期熟成	10,945	1,312		44,254		
		1433.85kg	1433.85kg	2737.35kg	2737.35kg						
実績 (R2年度)	0.2	フレッシュ	カチョカバロ	ラクレット	長期熟成(ゴータイプ)	1,907	2,346		3,040		
		0	0	653.9kg	158.9kg						

6 農政局長等の総合所見

製造コスト及び年間販売額ともに目標を達成できなかったことから、目標達成に必要な改善計画の作成を求める。

別記様式第5号

国産乳製品等競争力強化対策事業の事業評価票

- 1 事業実施主体名：株式会社花畑牧場
- 2 事業実施期間：平成30年 ～ 令和2年
- 3 補助額（事業費）：39,042,000円(18,075,000円)

4 事業内容

モzzarellaを中心としたナチュラルチーズの生産性向上と規模の拡大のため、チーズの製造設備(ストレッチャー(モzzarella製造機械)、チーズバット、生乳殺菌タンク)を導入した。新たな機械の導入により、1日あたりの生産数の増加、製造コストの低減を図った。

5 成果目標の達成状況

	生乳取扱量 (トン/日)	製造品目・ 年間製造量			年間製造経費 (千円)	年間製造経費(千円) /年間製造量(トン)	対現況比	年間販売額 (千円)	対現況比	備考
現況値 (H29年度)	18.6	モzzarella 180トン	ラクレット 240トン	その他チーズ 250トン	1,340,000	2,000	100%	1,914,286	100%	
目標値 (R2年度)	24.0	モzzarella 252トン	ラクレット 312トン	その他チーズ 300トン	1,555,200	1,800	-10%	2,541,000	32%	
実績 (R2年度)	31.0	モzzarella 700トン	ラクレット 200トン	その他チーズ 220トン	1,925,840	1,720	-14%	3,150,000	65%	

6 農政局長等の総合所見

製造コスト及び年間販売額は目標を上回っていることから、目標以上の成果を達成したと評価する。

別記様式第5号

国産乳製品等競争力強化対策事業の事業評価票

- 1 事業実施主体名：有限会社竹下牧場
- 2 事業実施期間：平成30年 ～ 令和2年
- 3 補助額（事業費）：42,660,000円（19,648,500円）

4 事業内容

新たにチーズ工房を建築し、平成30年度より製造を開始する。製品は店舗・飲食店に販売をするほかに、牧場来場者への販売、牧場アクティビティに利用する。また（株）山川が管理運営するゲストハウス『USHIYADO』と連携した農泊ビジネス（農商工連携事業 通巻番号1-29-078）における宿泊者への地元農産物を利用した飲食の提供・お土産品の販売にも活用する。これらの事業を行うことにより、酪農の価値と魅力、北海道中標津のよさをアピールする。

5 成果目標の達成状況

	生乳取扱量 (トン/日)	製造品目・ 年間製造量			年間製造経費 (千円)	年間製造経費(千円) /年間製造量(トン)	対現況比	年間販売額 (千円)	対現況比	備考
現況値 (H29年度)										
目標値 (R2年度)	82	コンテ	ラクレット	パスタフィラータ	7,046	2,610		11,880		
		900kg	900kg	900kg						
実績 (R2年度)	41	マリボー	パスタフィラータ	リコッタ	3,710	2,487		3,984		
		820kg	600kg	72kg						

6 農政局長等の総合所見

製造コストは目標を上回ったものの、年間販売額は目標を達成できなかったことから、目標達成に必要な改善計画の作成を求める。

別記様式第5号

国産乳製品等競争力強化対策事業の事業評価票

- 1 事業実施主体名：有限会社アドナイ
- 2 事業実施期間：平成30年 ～ 令和2年
- 3 補助額（事業費）：17,604,000円（8,150,000円）

4 事業内容

チーズ熟成室・カット包装室を新設し製品の価値を高め、収益性を高める。

5 成果目標の達成状況

	生乳取扱量 (トン/日)	製造品目・ 年間製造量	年間製造経 費 (千円)	年間製造経費(千 円)/年間製造量 (トン)	対現況比	年間販売額 (千円)	対現況比	備考
現況値 (H29年度)	0.29	カチョカパロ	6.5	22,500	1,957	44,000		
		セミハード	3.6					
		白カビ	0.4					
		ウオッシュユ	0.3					
		合計	10.8					
目標値 (R2年度)	0.47	カチョカパロ	6.5	32,000	1,711	58,000	-13%	32%
		セミハード	5.6					
		白カビ	1.2					
		ウオッシュユ	1.2					
		ハード	4.2					
合計	18.7							
実績 (R2年度)	0.24	カチョカパロ	3.5	30,434	2,415	40,000	23%	-9%
		セミハード	5.2					
		白カビ	0.3					
		ウオッシュユ	0.4					
		ハード	3.2					
合計	12.6							

6 農政局長等の総合所見

製造コスト及び年間販売額ともに目標を達成できなかったことから、目標達成に必要な改善計画の作成を求める。

別記様式第5号

国産乳製品等競争力強化対策事業の事業評価票

- 1 事業実施主体名：チーズ工房チカブ
- 2 事業実施期間：平成30年 ～ 令和2年
- 3 補助額（事業費）：6,696,000円（3,100,000円）

4 事業内容

熟成スペースの不足により、生産量が上げられない状況であったため、本事業にてボトルネックになっていた熟成庫および製品保管庫の増設を行った。熟成庫および製品保管庫は、2018年8月に完成し、9月から運用を開始した。
 これにより生産量を徐々に増やすことができたが、運用当初では熟成環境が変わることで品質が不安定になることがあった。熟成庫の温度・湿度のコントロールや癖をつかみ適切なチーズの熟成方法を得るため一定の期間を必要とした。今シーズンは、ある程度熟成環境の癖をつかめたことで、チーズの品質が安定してきたところだったが、コロナ禍の影響により、先が見通しづらく、在庫過多とならないよう生産のペースを上げられない状況もあった。
 合わせて導入した、パッケージ後の製品等を保管するための製品保管庫は、今まで分散していた冷蔵設備を一元化でき効率化につながった。

5 成果目標の達成状況

	生乳取扱量 (トン/日)	製造品目・年間製造量		年間製造経費 (千円)	年間製造経費(千円)/年間製造量(トン)	対現況比	年間販売額 (千円)	対現況比	備考
現況値 (H29年度)	0.075	ハード	559	8,902	4,634		13,536		
		セミハード	663						
		白カビ	384						
		フレッシュ	274						
		長期熟成	0						
目標値 (R2年度)	0.10	ハード	823	10,156	4,022	-13%	16,151	19%	
		セミハード	948						
		白カビ	390						
		フレッシュ	295						
		長期熟成	70						
実績 (R2年度)	0.083	ハード	490	9,613	4,422	-5%	18,584	37%	
		セミハード	747						
		白カビ	658						
		フレッシュ	279						
		長期熟成	0						

6 農政局長等の総合所見

年間販売額は目標を上回ったものの、製造コストは目標を達成できなかったことから、目標達成に必要な改善計画の作成を求める。

国産乳製品等競争力強化対策事業の事業評価票

- 1 事業実施主体名：(有) プロセスグループ夢民舎
- 2 事業実施期間：平成30年 ～ 令和2年
- 3 補助額（事業費）：63,993,461円（29,387,100円）

4 事業内容

(1) 新製品チーズの開発・量産化
チーズブレッド（塗って食べる）タイプの新商品チーズとして、市場であまり類を見ない”ブルーチーズベースのクリームチーズ”の開発・量産化と、社内ラインナップに無いセミハード系チーズ（ゴータ、ラクレット）の生産開発を行い、国産チーズ競争力向上を計る。

(2) パスタフィラータチーズ、他種チーズの品質改善および生産性向上
既存第1工場で、多種チーズ（カマンベール、ブルーチーズ等）とパスタフィラータチーズ（カチョカバロ、さけるチーズ、モッツァレラ）を併産しているが、手狭で、人流が交錯しやすい環境の為、パスタフィラータチーズに白カビ・青カビが混入し、パスタフィラータチーズ本来の商品価値を損なうケースが頻発している。カビを利用するチーズと用いないチーズの生産を分離することで、個々に持つチーズの風味・品質を確保し、お客様満足度を向上を通して、各種チーズの競争力向上と拡販を計る。

5 成果目標の達成状況

	生乳取扱量 (トン/日)	製品目・ 年間製造量				年間製造経費 (千円)	年間製造経費(千円)/ 年間製造量(トン)	対現況比	年間販売額 (千円)	対現況比	備考
		白カビ	パスタフィラータ	フレッシュ	その他						
現況値 (H29年度)	3.0	白カビ	パスタフィラータ	フレッシュ	その他	145,660	3,623		235,810		
		14トン	8トン	15トン	3.2トン						
目標値 (R2年度)	3.5	白カビ	パスタフィラータ	フレッシュ	その他	162,650	3,827	6%	266,260	13%	
		14トン	9トン	18トン	8トン						
実績 (R2年度)	2.2	白カビ	パスタフィラータ	フレッシュ	その他	191,064	2,668	-26%	327,044	39%	
		20トン	23.5トン	25.5トン	2.6トン						

6 農政局長等の総合所見

年間販売額は目標を上回ったことから、目標以上の成果を達成したと評価する。

別記様式第5号

国産乳製品等競争力強化対策事業の事業評価票

- 1 事業実施主体名：株式会社牧家
- 2 事業実施期間：平成30年 ～ 令和2年
- 3 補助額（事業費）：69,660千円（31,250千円）

4 事業内容

- ・新工場設置により作業スペースを20平米拡張することで、もっとも人手のかかっていた梱包作業を自動化することを可能とした。
- ・主力商品であるカチョカヴァロは成型作業の効率化及び乾燥時間の短縮が難しい為、形状を変え製造工程の改善で生産性の向上したプロボローネの増産及び拡販に努めている。
- ・国内で唯一飼育しているアングラー種の生乳を活かした硬質系チーズ（製法で分類するとパルミジャーノレッジャーノ）の製造実験及び販売を行っている。

5 成果目標の達成状況

	生乳取扱量 (トン/日)	製造品目・ 年間製造量	年間製造経 費 (千円)	年間製造経費(千 円)/年間製造量 (トン)	対現況比	年間販売額 (千円)	対現況比	備考
現況値 (H29年度)	1.5	カチョカヴァロ	24	132,794	2,554	123,000		
		さけるチーズ	12					
		プロボローネ	2					
		自社乳チーズ	0					
		業務用各種	14					
		かけるチーズ ソース	0					
目標値 (R2年度)	2	カチョカヴァロ	25.6	165,969	2,401	172,600	40%	
		さけるチーズ	12.7					
		プロボローネ	16.7					
		自社乳チーズ	1					
		業務用各種	13.2					
		かけるチーズ ソース	0					
実績 (R2年度)	1.3	カチョカヴァロ	11.28	158,430	3,333	90,036	-27%	
		さけるチーズ	5.1					
		プロボローネ	19.39					
		自社乳チーズ	0					
		業務用各種	2.46					
		かけるチーズ ソース	9.31					

6 農政局長等の総合所見

年間販売額は目標を達成できなかったことから、目標達成に必要な改善計画の作成を求める。

別記様式第5号

国産乳製品等競争力強化対策事業の事業評価票

- 1 事業実施主体名：さらべつチーズ工房有限会社
- 2 事業実施期間：平成30年 ～ 令和2年
- 3 補助額（事業費）：63,644,400円（29,465,000円）

4 事業内容

作業の効率化、製品の高品質化および生産能力の向上を実現するため、離れた位置にあったチーズの製造室、熟成庫、パッケージ室を1ヶ所1棟として集約拡大し、作業内容に沿った効率的な配置を行い作業効率を上げコスト低減を図り増産を行った。

5 成果目標の達成状況

	生乳取扱量 (トン/日)	製造品目・年間製造量				年間製造経費 (千円)	年間製造経費(千円)/年間製造量 (トン)	対現況比	年間販売額 (千円)	対現況比	備考
		ハードチーズ	ブルーチーズ	ウォッシュチーズ	モッツアレラ						
現況値 (H29年度)	0.36	2.1	1.54	1.8	0.91	24,194	3,810		25,229		
目標値 (R2年度)	0.5	2.94	2.16	2.52	1.28	29,668	3,333	-13%	35,040	39%	
実績 (R2年度)	0.34	1.32	0.2	0.31	0.93	8,371	3,033	-20%	23,819	-6%	

6 農政局長等の総合所見

製造コストは目標を上回ったものの、年間販売額は目標を達成できなかったことから、目標達成に必要な改善計画の作成を求める。

別記様式第5号

国産乳製品等競争力強化対策事業の事業評価票

- 1 事業実施主体名：株式会社町村農場
- 2 事業実施期間：平成30年 ～ 令和2年
- 3 補助額（事業費）：49,874,400円（20,040,000円）

4 事業内容

高品質なチーズ製造のためのチーズ原料の歩留まり向上を目的として、夜間搾乳の生乳の高い乳固形分量に着目し、その生乳の貯乳を目的とするバルククーラーの導入と、製造工程の合理化による省力化の実現を目的として、夜間生乳を含めた複数種のチーズの同時製造を可能とするための、自動攪拌機能付きのチーズバット1台を導入。

5 成果目標の達成状況

	生乳取扱量 (トン/日)	製造品目・年間製造量		年間製造経費 (千円)	年間製造経費(千円)/年間製造量(トン)	対現況比	年間販売額 (千円)	対現況比	備考
現況値 (H29年度)	0.50	モツアレラ	1.3	50,096	3,023		55,376		
		ゴータ	0.6						
		カマンベール	1.0						
		クリームチーズ	10.97						
		カチョカヴァロ	0.3						
		マスカルポーネ	2.4						
目標値 (R2年度)	1.25	モツアレラ	6	98,440	2,270	-25%	105,000	90%	
		ゴータ	4						
		カマンベール	5						
		クリームチーズ	22.37						
		カチョカヴァロ	1						
		マスカルポーネ	6						
実績 (R2年度)	0.89	モツアレラ	3.53	65,449	2,354	-22%	102,280	85%	
		ゴータ	0.99						
		カマンベール	2.35						
		クリームチーズ	17.81						
		カチョカヴァロ	0.40						
		マスカルポーネ	2.72						

6 農政局長等の総合所見

製造コストは目標を下回ったものの、10%以上の低減を達成できた。同様に、年間販売額は目標を下回ったものの、10%以上の増加は達成できた。したがって、おおむね目標どおりの成果を達成したと評価する。

国産乳製品等競争力強化対策事業の事業評価票

- 1 事業実施主体名：ASUKAのチーズ工房
- 2 事業実施期間：令和元年 ～ 令和2年
- 3 補助額（事業費）：1,886,760円（873,500円）

4 事業内容

チーズバットの容量は2000ℓだが、パスタフィラタチーズは成型に必要な人手を確保できないため、140ℓ/日で週4日製造していた。チーズストレッチャーを導入する事によって、2000ℓ/日の生乳を処理できるようになるので、40%のチーズ増産を目指し取り組んだ。

5 成果目標の達成状況

	生乳取扱量 (トン/日)	製造品目・年間製造量				年間製造経費 (千円)	年間製造経費(千円)/年間製造量 (トン)	対現況比	年間販売額 (千円)	対現況比	備考
		セミハード	白カビ	モツアレラ	パスタフィラタ						
現況値 (H30年度)	0.57	0.3	0.3	0.1	1.3	7,700	3,850		8,021		
目標値 (R2年度)	0.64	0.3	0.3	0.1	1.5	7,933	3,606	-5%	8,824	10%	
実績 (R2年度)	0.94	0.9	0.5	0.2	1.8	5,823	1,712	-56%	12,691	58%	

6 農政局長等の総合所見

年間販売額は目標を上回ったことから、目標以上の成果を達成したと評価する。

別記様式第5号

国産乳製品等競争力強化対策事業の事業評価票

- 1 事業実施主体名：株式会社花畑牧場
- 2 事業実施期間：令和元年 ～ 令和2年
- 3 補助額（事業費）：117,004,800円（52,930,000円）

4 事業内容

モッツアレラの多品種化・大量生産を実現するために、チーズの製造設備(ストレッチャー、トンネルフリーザー、セパレータ、ボイラー)を導入。新たな機械の導入により、1日あたりの生産数の増加、多品種展開、製造コストの低減を図った。

5 成果目標の達成状況

	生乳取扱量 (トン/日)	製造品目・年間製造量			年間製造経費 (千円)	年間製造経費(千円)/年間製造量 (トン)	対現況比	年間販売額 (千円)	対現況比	備考
		モッツアレラ	ラクレット	その他チーズ						
現況値 (H29年度)	25.3	310トン	410トン	190トン	1,729,000	1,900		2,542,647		
目標値 (R2年度)	31.0	353トン	450トン	310トン	1,956,098	1,758	-7%	3,116,400	23%	
実績 (R2年度)	31.0	700トン	200トン	220トン	1,925,840	1,720	-9%	3,150,000	24%	

6 農政局長等の総合所見

年間販売額は目標を上回ったことから、目標以上の成果を達成したと評価する。